空室情報

※ お問い合わせは、03-5906-5340 または、info@chc.or.jp まで

今月の「空き住戸出ました！おススメのお部屋」です。

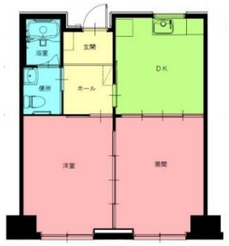
● **コレクティブハウス元総社コモンズ**

この価格で、
これだけついてくる！

1LDK 49.8㎡ ＋ 広々コモンスペース
家賃 月 58,900 円

トイレ・風呂別
エアコン完備
天井裏収納
畑もあるよ！

コモンスペース



※ コレクティブハウス元総社コモンズは、
群馬県前橋市元総社にあります。

コレクティブハウスとは？

NPO コレクティブハウジング社(CHC)が、企画・推進する
「多世代でつながる・地域とつながる」
新しい仕組みの賃貸住宅です。

各ハウス 居住者のブログ

実際の暮らしの様子は、コチラ

スガモフラット
http://blog.goo.ne.jp/sugamos2014/

コレクティブハウス聖蹟
http://chcseiseki.blog60.fc2.com/

コレクティブハウス大泉学園
http://blog.livedoor.jp/ch4_oizumi/

事業主募集中！

※ お問い合わせは、03-5906-5340 または、info@chc.or.jp まで

NPO コレクティブハウジング社(CHC)では、事業主を募集しています。
コレクティブハウスは、大家さんの余分な手間やコストを削減し、空室を減らします。
CHC が、居住者の暮らしと大家さんの物件管理の両方の運営支援を行いますので、安心して賃貸物件としての事業を継続できます。コレクティブハウスの賃貸事業に興味ある事業主さん、ご連絡お待ちしております！
たくさんの居住希望者が、住みたいまちのエリアを中心に、事業主さん探しの活動を続けています。

居住希望者の活動の様子

http://common-meal.blogspot.jp/

スケジュール

※ お問い合わせは、03-5906-5340 または、info@chc.or.jp まで

● 住みたい方
オリエンテーション

コレクティブハウスに住みたい
暮らしづくりに興味のある方

2 月 14 日(土) 10:00～12:00
2 月 18 日(水) 19:00～21:00
2 月 25 日(水) 19:00～21:00

参加費： 2,000 円
会場： 目白 CHC オフィス

● コレクティブハウジング
入門

コレクティブハウジングのことを
お知りになりたい方

2 月 16 日(月) 13:30～15:00
2 月 19 日(木) 19:00～20:30

参加費： 3,000 円
会場： 目白 CHC オフィス

●コレクティブハウス
見学会

実際のハウスを見てみたい方

スガモフラット
2 月 15 日(日) 13:00～15:00

参加費： 2,000 円
会場： 各ハウス

お知らせ

● Facebook
CHC の facebook ページ「コレクティブハウジングで行こう！」を
ホームページのトップページからご覧頂けるようになりました。
ぜひ「いいね！」ボタンへのクリックをお願い致します。
http://www.chc.or.jp/

● 目白オフィス　オープンデイ
目白オフィス、会員の皆さまにお気軽にお越し頂けるよう、
毎週木曜日午後をオフィス オープンデイとしています。
事務局メンバーがおりますので、お話をしながら、関連書籍や資料などもご覧いただけます。
お近くにお越しの際にはぜひお立ち寄りください。
※　都合によりメンバーが不在の場合もありますので、お越しの際には、事前に事務局までご一報ください。
TEL: 03-5906-5340 / MAIL: info@chc.or.jp

目白 CHC オフィスへのアクセス

〒171-0031
東京都豊島区目白 3-4-5 アビタメジロ 302
03-5906-5340

人材募集！　あなたのやる気、専門知識を活かしませんか？
NPO コレクティブハウジング社では、活動に協力してくれる人材を募集しています。info@chc.or.jp まで

コレクティブなつながりを創造する　　2015 年 2 月 10 日 第 8 号

ほぼ月刊 CHC

これこれ新聞

NPO コレクティブハウジング社（CHC）オンライン
http://www.chc.or.jp/
お問い合わせは、03 – 5906 – 5340 または、info@chc.or.jp まで

月刊これこれ新聞
定価 200 円（税込）
定期購読 1,980 円（年間/送料別）

CHC 最新活動ニュース　　*次回「オープンデイカフェ」*

『スウェーデン社会のこれこれ』開催

今月のトピック

オープンデイカフェ開催！
次回 2/6（金）は、「スウェーデン社会のこれこれ」をテーマに、嶋崎東子さんにお話していただきます。

新年のご挨拶
コレクティブハウジング社理事より、新年にあたってのメッセージです。

居住者便り
ある居住者の冬のできごとを綴っていただきました。

住まい方講座＆ワークショップのご報告
お待たせしました！
昨年 11/7 と 12/5 に開催した「住まい方講座＆ワークショップ」のご報告です。

「考える人」を読んで
季刊誌「考える人」に掲載されたコレクティブハウスの記事を読んで、宮前が寄稿。

これこれ川柳・連載コラム
すっかり定着してきたコーナー。今月もあります。

お知らせ
近日開催の各講座、オリエンテーションのスケジュール、コレクティブハウスの空き住戸、情報満載！

オープンデイカフェ特別篇
「嶋崎東子さんのお話」

～ スウェーデン社会のこれこれ ～

日時：2015 年 2 月 6 日(金) 19:00 – 21:00
場所：目白 CHC オフィス

ゲストスピーカー： **嶋崎 東子**さん

スウェーデンのウプサラ大学

私は、所属する旭川大学から海外留学研修（サバティカル）の機会を得、2013 年 9 月から 2014 年 8 月末まで、スウェーデンのウプサラ大学ジェンダー研究センターで学んできました。

スウェーデンは、社会福祉、男女平等、環境教育等の先進国として有名ですが、福祉が市民生活の根幹にあり、政治や行政の中心課題であること、制度や原則というものが建前ではなくしっかり守られていること等に感銘を受けました。

今回は、私が生活する中で感じたスウェーデン社会について、福祉や教育、ジェンダー、政治のあり方等からお話したいと思います。コレクティブハウスもいくつか訪問しましたので、出来る範囲で触れられたらと思っています。

■ 嶋崎東子さんプロフィール

神奈川県出身。千葉大学からお茶の水女子大学大学院に進み、専門学校や大学での非常勤講師を経て、2008 年から旭川大学保健福祉学部コミュニティ福祉学科准教授。専門は家族社会学、生活経営学、ジェンダー論。元かんかん森居住者であり、旭川にもコレクティブハウスを作れないかと模索中。

旭川大学

発行　NPO コレクティブハウジング社（CHC）　〒171-0031 東京都豊島区目白 3-4-5 アビタメジロ 302
TEL: 03-5906-5340 / FAX: 03-5906-5341
E-mail: info@chc.or.jp

いよいよ 2015 年

理事メンバーより新年のご挨拶

会員のみなさま

新年明けましておめでとうございます。
お正月はみなさまどのように過ごされましたでしょうか。

１月を迎え、ＣＨＣの２０１４年度も早８ヶ月を過ぎました。
今期は、各種講座の開催や、コレクティブハウス案件の獲得に向けた営業活動の強化等を中心に据えた活動計画でした。

新規の事業企画の受託など、具体的な成果として芽のふいたものもありますが、まだまだ推進していかなければならない分野もあります。

お知らせしておりますとおり、年末にはコレクティブハウスを取り上げた番組放送、雑誌発売がありました。
（http://www.chc.or.jp/　から「What's NEW 更新情報」をご覧ください）
これらによって新たにＣＨＣにコンタクトしてくださる方も増えています。

こういった動きも追い風にしながら、新年も少しずつ前に進んでいきたいと思います。
何卒、引き続き会員のみなさまからのご支援をいただければと存じます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2015 年 1 月　理事メンバー一同

これこれ川柳

楽しいよ　みんなつくるよ　ミールをね
―　鱒鱗（小３）

コレクティブ　部屋べつだけど　さびしくない
―　鱒鱗（小３）

住みたくて　はじめた活動　これ万里
―　紅柳

焼き鳥の　串のごときよ　話し合い
―　居住者先生

お正月　多世代多数の　笑顔あり
―　深山

ほめゲーで　打ち解けてから　定例会
―　奥の山道

最近の　コモンミールに　魚出ず
―　近所のネコ

※皆さまも、お詠みになった川柳を、編集部宛てに、お送りください。

連載コラム　― 育児日誌 in コレクティブハウス ―　その５

コレクティブハウス居住者、Ｏ橋さん（40代男性）のコレクティブハウスでの子育てと暮らしの様子をお伝えするコラムです。Ｏ橋さんの奮闘する育児の様子を楽しみながら、見守って頂けますと幸いです。

生まれた時からコレクティブハウスに住んでいる我が娘、一歳十ヶ月。さぞかし人に慣れていて、へっちゃらな子に育つかと思いきや、人見知りの激しい彼女。そういう時期だからということもあると思いますが、それにしても、いつも会うハウスの居住者を怖がったり、抱っこされて泣き出してしまったり。せっかく、いろんな人と暮らしているのだから、もう少し他人と仲良くしたり、いろんな人にかまわれることを楽しめば良いのにと、思ってしまうくらいです。

クリスマス、サンタさんに大泣き。

それでも、日々少しずつ成長していますし、旅行やイベントを経験すると、目に見えて成長していきます。イベントの多い年末年始では、本当にどんどんと成長していき、暮れには、「あっち、行く」と、単語二つを並べる程度だったのが、「ねんねんも（保育園でネンネちゃんと呼ばれていたらしく、自分のことを「ねんねん」と呼んでいる）、おかーたんと一緒に行くのー」など、文章らしい言い方をできるようになってきました。また、ハウスの人には大分慣れて、誰が誰かも覚え始めました。

年末のもちつき

十二月、居住者のコバさんに、ピピーちゃん（キティちゃんのこと、うまく言えない）の貯金箱をプレゼントしてもらったことがありました。本人も、とても喜んでいたので、「誰がくれたのかなー？」「コバさんだよー」と、何度も繰り返し言っていると、コバさんのことを覚えたようでした。自分の部屋からコモンスペースへ行くと、「コバさんいないねぇ」とか、コバさんがコモンに来ると、「コバさん、来たねぇ」と、言うようになりました。

大人たちが会議中、子どもたちはいつも楽しそう

一歳児２人でミール後の掃除

お正月、両親それぞれの実家に帰省し、じいじとばあばに、お年玉をもらいました。まだお金のことはよく分からなく、喜びはあまりない感じだったので、親としては、「お年玉、じいじとばあばがくれたね」とか、「お年玉もらって良かったね」と言って、気分を盛り上げようと、何度も語りかけました。自分の家に帰ってから、「お年玉は、誰がくれたのかなー？」と聞くと、娘は、「コバさん」と、応えました。

年始の書き初め

この様にして、ハウスの人は、あっと言う間に、じいじやばあばをも超す存在へとなっていったのでした。
ちなみに、最近、部屋で仕事をしていて、ちょっと目を離していた隙に、娘が、食べていたパンのパンくずやおもちゃで、部屋をぐっちゃぐちゃにした時がありました。びっくりして、「こら！食べ物で遊んじゃダメ！」と、しかりました。その時、「誰がこんなことしたの？」「悪い子はだあれ？」と、問い詰めると、返ってきた応えは「コバさん」。
この様に、都合良く他人の名前を出せるくらい、成長(?)しているのでした。

大雪でかまくら作り

【書評】

『考える人』　『家族ってなんだ？』

家族を巡るさまざまな社会状況を、コレクティブを推進しながらこの数年様々に考えてきたが、山極さんのロングインタビューはとても示唆に富み、そしてとても面白かった。
人間の視点だけから考えがちな『家族』という関係を、人間も含む霊長類の暮らしや生き方から見直し、人間がどうして今のような家族、社会を築いていきてきたのかを、生物としての視点や、進化の中の視点で改めて見直すことができる。特に「家族とコミュティについて」、「共に食べることの意味」、「人間の子供がなぜうるさいのか？（大声で泣くか？）」「父親はどうやって親になるのか」などなど、コレクティブハウスの暮らしの中でも何かと話題にもなり、社会の中でも大きな問題にもなることが、どうしてそのようなことになるのか、その根源がどこにあるのかが納得できた。

猿とゴリラと人、その３つを比較して、猿は家族を持たずヒエラルキーのあるコミュニティでくらし、ゴリラはコミュニティを持たず一夫多妻の家族でくらす、人間だけが家族とコミュニティの両方を持つという。そういわれてみればそうである。そして、家族とコミュニティのルールが異なることがある事も多く、それをどのように解決するか私達は悩む。矛盾を抱えつつ、両立させるという複雑な行動が必要である。何故人間だけがそのような面倒な存在として生きてきたのか？　生きられるようになったのか？　それは、人だけがこの複雑さを乗り越える大きな脳を発達させられたからという。
その言葉に、今のこの世界にあふれるテロや戦争、貧富の格差をおもい、情けなさと恥ずかしさを感じた。私達は退化しているのでは？　共感するという能力を人はもつという。そのことが人を人としているのだという。私達は受け入れ合う存在として生まれているのだ。

共に食べることはコレクティブハウスでは大きな要素と言われている、それがどうしてなのか、いろいろと理由を考えては来たが、実は私には今ひとつしっくり来なかった。ところが、猿もゴリラもあらゆる動物は、親が子に食べ物をわけることはするが、個食であり、他者とともに食べ、食べ物をわける事はないという。人間のみが他人とも同じテーブルについて、一緒に食べる生き物だという。そうして分け合うことで人間は生き延びてきたのだ。遺伝子の中に共に食べることが含まれているのだとしたら、共に食べることこそが人の本質であるということになる。人が生きるには、共に食べることが含まれているのであるのだから、コモンミールは人にとって当たり前のことだったのだ。

そして、人の赤ん坊が大声で泣くのも身体的に弱い人類が年中子供を産め、多産であることで種の保存をはかっていたことに関連するという。ゴリラや猿は母親が１年近く子供を抱えたままで暮らし、子供は大声で泣く必要はないそうだ。しかし、人は多産で親だけでは子育てができないために、集団で子育てをする生き物となった。そのために、人の赤ちゃんは大声で泣いて、周りの大人に気がついてもらい保護してもらわなければならなかったという。だから人の子は身体に比して大声を出せる。私達はもともと、核家族で子育てをするのでなく、集団で子育てをする種族だということだ。
人が頭でっかちにゆえに創り上げている様々な規範は、私達の進化の過程や生物としての在り方を忘れようとし、無かったことにしようとしてしまう。私達は生き物としての身体を持ち続け、決してバーチャルに脳だけの存在にはなれない。そのことをもう一度見直して、私達の大きな脳が可能にした、共感する力やイメージする力をちゃんとつかっていかなくてはと改めて思う。
紙面の都合でここまで。
他にも、どうやってゴリラのシルバーバックが家族の中で認められ父親という存在になるのか？とか、たくさん、たくさん、おもしろく、考えさせられるお話が満載なのです。是非皆さん読んでみて下さい。

宮前眞理子

雑誌掲載

■ 『考える人』 新潮社　2015 年冬号（好評発売中）
特集テーマは「家族ってなんだ？」。スガモフラット、コレクティブハウス聖蹟の２カ所取材で、何人もの居住者に協力いただきました。直接引用されていない言葉も含めて、多くの居住者のいろいろな気持ちが盛り込まれた、とても良い記事になりました。

✉ 居住者便り　コレクティブハウスの日常の暮らしから

インフルエンザになって　～ 単身コレクティブハウスでの日々 ～

感染者が拡大中とのニュースを人ごとのように観ていた私も、その流行にしっかりと乗り、インフルエンザに罹りました。いつもの風邪となんか違う？と感じながらも、まさか・・・と思っていたら、高熱も出てきました。次の朝は病院に行くのもかなりつらい状態に。なんとか病院に行ったところ、診断は「Ａ香港型です。きょうから５日間は出勤停止です」と。

薬局で処方箋を待つ時間が、しんどい。（早くしてくれ～と心で叫ぶ）
さらに、リレンザの吸入器の使い方を長々説明される。（いいから、早くちょうだい！）
やっと自室にたどり着き、会社にインフルのため５日間休む旨を報告。さらにハウスのメーリングリストでも、居住者に伝えました。

とにかく、リレンザを吸入して、横になる。（ん？　なんか少し呼吸が楽かも）恐るべし、この薬の、即効性。でもまだまだつらい。熱も高い。とにかく寝る。
夜になり、ベッドで考える。（今日はミールあったっけ？で、私は申し込んでたっけ？）
しかし、食欲は全く無し。治療開始１日目は終了。

この時、実はメールで「ミール食べられそうですか？　運びましょうか？」と聞いてくれていたのですが、反応出来る状態でなく、翌日に部屋の外まで運んでもらい、この１食を何回かに分けていただきました。その時のミールはＨさんの定番『シンガポールチキンライス』。（大根スープがなんて体に優しいんだ～）（このチキンの出汁で炊かれたご飯、タイ米で本格的に作ってくれたこともあったけど、私はこの日本米のモチモチ感が好きだな～などと思いながら）
食事をつくるまで元気が無いので、ミールがホントにありがたかったです。運んでくれる人がいることも。治療開始２日目。

さらに、居住者の方から「具合はどう？」「買い物あれば、買ってきますよ」というメールや差し入れをたくさんいただきました。「夕食のお裾分け」といって届けてくれたり、ヨーグルトやスープ、キッシュなど、本当にみなさんに助けてもらいました。日ごとに回復してくるにつれて、そのありがたさ・おいしさも増幅。（ドアの外においしいモノが～。これはクセになってしまいそうだ。どこかで断ち切らなければ。）

こんな時、もしご近所つきあいの全くないところで生活していたら、この５日間をどんな風に過ごしていたのか・・・。もちろん、なんでも家にあるもので食いつなぎ、回復を待てばいいとも言えますが、「具合どうですか？」という一言や、誰かに作ってもらった一杯のスープは心にも体にも効きます。困った時に「助けて」と言える環境にあるということの安心感も大きいです。人生初のインフルエンザによる５日間は、コレクティブハウスのありがたさを再認識する時間となりました。
出勤停止最終日に、自室にて。

２０１５年１月２７日　ふじた

報告 住まい方講座 ＆ ワークショップ

一人暮らしも核家族も、多世代で暮らし 心豊かに生きる

住まい

これからの自分の暮らし方・生き方について考えたとき、「まだまだ先のことは分からない」「いろいろ探しているけれどしっくり来るような暮らし方が見つからない」「考えが漠然としてまとまらない」という方に、自分がどんな暮らしを望んでいるのかを掘り下げ、コレクティブハウスという協力し合える暮らしの仕組みを持つ住まいから、さまざまな可能性を見つけいただくための講座＆ＷＳを開催しています。

Part1：11／7（金）、Part2：12／5（金）には、20 代～70 代までの実に多様な方々が世代を越えて暮らし・住まい・生き方について語り合いました。

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
女性	0	4	4	3	13	2	**26**
男性	1	2	2	1	0	0	**6**
合計	**1**	**6**	**6**	**4**	**13**	**2**	**32**

■ 参加動機

11／7 はウィメンズプラザフォーラムの中での開催だったためそちらからの情報でいらした方、12／5 はイベントの告知が無料でできる Web サイト「こくちーず」をみていらした方の他、知人の口コミで知ったと言う方など、はじめてコレクティブハウスを知ったと言う方が３割いらっしゃいました。また、現在シェアハウスに住んでいらっしゃる方が２割いらっしゃり、20～50 代と決して若者の住まい選択だけではなくなっている現状が垣間見ました。

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
CH に関心がある	1	2	3	2	2	2	**12**
自分の住まいの選択肢として	1	1	2		5		**9**
友人に誘われて		1	1		2	1	**5**
多世代の暮らしへの関心	1		2			1	**4**
一人暮らしでも心豊かに暮らす事への関心			1		3		**4**
多世代・多様な人と住まいの話をしたい	1		1		2		**4**
考えを深めたい、生き方を模索したい		1			2		**3**
CH をつくりたい		2			1		**3**
プライバシーと共同のバランスに関心					2		**2**
CH の考え方を社会に活かしたい		1				1	**2**
初心に戻って CH を考える機会として		1		1			**2**
老後の暮らしについて考えたい					1		**1**
血縁でない住まい・住まい方への関心		1					**1**
親との同居・近居のバリエーションとして		1					**1**
賃貸生活に不安		1					**1**
CH の暮らしについて知りたい			1				**1**
CH の認知度がどれほどのものか知りたい					1		**1**
DVD 上映があるため					1		**1**

■ 参加者の感想

参加された皆さまからいただいたアンケートには「いろいろな方と話しができて楽しかった」「様々な年代の方の意見が聞けて良かった」「もっと話がしたい」というご意見が数多くありました。なかなか住まいについて語り合う場が普段ないようで、似た境遇の人同士の共感も、多様な人たちとの意見交換も、どちらも必要とされていることがよく分かりました。

＜コレクティブハウスの暮らし方は生き方の表れ＞

ＷＳを通して感じたことは、コレクティブハウスはお互いの自由を尊重しつつも、みんなで協力をするコミュニティであるということ。

このことは社会で生きていく上で不可欠な考えであり、同時に現在失われている力だと思う。私も含めた独身の若者はほとんどが一人暮らしをして子供や年配の方と接する機会がなく、同時に関係性がないため他人にも無関心である。また、シェアハウスは同世代の仲間と関係性を持つ傾向がある。

高齢化がますます進む日本では、様々な世代とお互い支え合い学び合う社会が今後必ず必要であると私は考えているが、コレクティブハウスはそれを実現している場だと感じた。同時に、多様な人と接することが得ではなく煩わしいと考える人も多くいるため、このコンセプトを多くの人に理解してもらうためにはまだまだ時間が必要であるとも感じた。

（２０代男性）

＜多世代の暮らしの可能性にワクワクしました＞

スウェーデンのコレクティブハウス(以下、CH)”フェルドクネッペン”の方が紹介されていた「さよならを言うのではなく、出会いを求めなさい」という言葉が心に響いた。

もし自分が、一人や家族だけでなく、他人と関わりを持ちながら暮らすことを想像したとき、自分が得られる今までになかったものとは？

お互いの得意なことを提供しあったり、ワークショップを持ち回りで開いてお互いに学び合ったり。一緒に食事をつくったり、一緒に食べたり。予定を合わせて場所を決めて、終電を気にしたりしなくても、誰かと食卓で会話する時間が持てたり。

同じ CH で親世代と同居したり、系列の CH に住んで親子２世帯が行き来しあったり、夫婦生活を CH で送ったり。他人に囲まれた家族生活（同居生活）という、新しい選択肢があるのではないかと可能性を感じたり。多世代と暮らす事で、子どもや高齢者、障害のある方に対して血の通った配慮ができたりするんじゃないかなと思ったり。

将来に可能性を感じ、ワクワクさせてくれる講座をありがとうございました！

（30 代 女性）

後半のワークショップでは、短い時間ではとても足りない、住まい・暮らし・生き方についての濃い話が行き交い、それぞれの方が感じている不安や希望、期待についてより深く話をする場の必要性を感じました。

今後も月１回ぐらいのペースで、講座＆WS を開催して行けたらと思っています。「こんな話がこんな人たちとしたい」というご意見・ご提案を是非お寄せ下さい。オーダーメードの WS もできると思います。

担当：狩野

■ 人生の第２ステージの暮らし～フェルドクネッペン　を観ての感想（11／7）

　フェルドクネッペンはストックホルムにあるコレクティブハウスで、居住者が事業者に働きかけて６年の歳月をかけてやっと実現したプロジェクトです。40 代以上の方の住まいで、子どもが独立した後、まだエネルギーのあるうちに自分らしい生き生きとした住まいを作ろうという考え方をもっています。
　ビデオは、フェルドクネッペンが５周年を迎えたときに住人の手で作られたもので、味わい深い言葉でここでの暮らしを語っています。そのビデオを観て、心に響いたキーワードを出し合いました。皆さんが暮らしに望むことと重なっている言葉が共感を呼んでいるようです。

悲しかったり悩んだりしたら、コモンルームに下りてくればいい。誰かしら話し相手になってくれるから。
　→ 一日に一度も話をしないということはない訳ですね！
　→ 部屋を出て行けば誰かに会える。一人暮らしにはないこと。

食事を一人でするより、みんなとしたかった。作ることも一緒に。
　→ 一緒に食事をする、誰かが誰かの役に立てる。

議論することでいろいろなことを学んだ。そして今でも、改善のプロセスで絶えず学び続けている。このことが大事。
　→ 素晴らしい。日本の介護の現状は、できることをやると言うよりできない前提。

誰かが認知症になったら家族が大変。ここでもそれは同じこと。それが一番難しいこと。
訪問介護で事足りなくなったら施設に入るしかない。でもそれは、ここに限ったことではない。
　→ 認知症になったら住み続けられないの？！

老人ホームなどと違い、ここでは、自分たちが決めた規則に従って暮らしている。好きなように考えやりたいことができる。そういう意味では他の人に影響を与えることもある。でもそれもここでは特別なことではない。
　→ 一人一人が自立した人間でないと、何年も話し合って「生きた住まい」をつくることはできないだろう。

計画段階から参加してきた仲間だと言うこと、前向きに物事をはじめ、この理想のために何年も力を注ぐ。住まいづくり、暮らしづくりを通して一緒に成長してきた仲間である。生きた家を作るには、基本の計画段階が重要。

年上の人にいろいろなことを学んでいる。

年をとってもここにネットワークを持っていると言うことが安心感につながる。
　→ 充実して生きるためには「ネットワーク」がとても重要。様々なものや時間は様々な人に支えられている。

彼らに会えて良かった。
「さよならを言うのではなく、出会いを求めなさい。それが生きるということ」

■ コレクティブハウスかんかん森 を観て、自分だったらどんな暮らしをしてみたい？（12／5）

- ちょっと誰かの役に立ち、ちょっと誰かに助けてもらって、人とのつながりのある暮らし。
- お互いが独立しながら緩やかな関係で生活を共有していくのは理想的。コモンミールを含め、共同で何かをするということですが、話し合いで進め、決して多数決で決めないというのは非常に不思議な感じもしますが、きっと話し合いを重ねていく中で皆が納得した結論になっていくのだろうと感じた。
- 個人をも守りつつ世間とつながって生活していく暮らし。
- 年をとるといろいろな世代の中で生きていきたいと思う一方で、考え方に柔らかさがなくなり、身体も動くことができなくなるので、その分若い人に負担がかかるのではと…自分のこととして不安がある。
- 周囲の人たちと関係がある生活というのはよい。運営がなかなか難しいように感じましたが、話し合いでうまく動いているのであれば理想的。
- 農業を中心に多世代の人と暮らしてみたい。その中に子育てや看取りがあればもっと良いかなと思う。一人で所有できないものが、人が集まればできるのかもと思った。
- つかず離れずのゆるいつながりの中でいろいろな世代の人と暮らしたいなあと思った。（信頼できる他人の存在）
- 一人暮らしなので、コモンスペースやコモンミールにあこがれます。
- 勉強会やグループ活動も面白そう。
- ペット可の人のみのコミュニティもよい。
- 日々の暮らしの楽しい事も大変なことも一人ではなく誰かと共有できる暮らしをしてみたい。
- 子どもをたくさんの大人の中で面倒みたい。
- 料理、掃除は作業でなくレクリエーションにしたい。一人でやると大変、出も５人でやれば…
- もう少し距離感がある方が自分には合っているかも。
- 入居条件が同じ人同士、単身とか女性とかがよいと思っている。

★★★　参加者の暮らし・住まいに関するニーズ　★★★

WS では、どのような暮らしがしたいか、様々なことが意見交換されましたが、印象的だったことにいくつか触れたいと思います。

まず一つは、60～70 代の方の意見です。「これからの住まいを考えるのに老人ホームを見学したが、当然のことながら老人ばかりで、おまけに何でも上げ膳据え膳で、これではかえって元気がなくなりそう。まだ、人の役に立てるうちは多世代の人と暮らしたい、それが自然な暮らしである。」このような考えで、コレクティブハウスに魅力を感じている一方で、「もし、自分で当番をこなせなくなったら、ぼけてしまったらどうしよう。退居しなきゃ行けない？」「若い人に迷惑を掛けたくないから、いろいろなことができなくなったら老人ホームに行くしかないか？」という不安を、多くの方が持っていらっしゃるようです。その不安を解消するために、隣人との助け合いをベースとしながらも、在宅の暮らしの支援ネットワークや高齢者の介護施設などとの連携を最初から組み込めるようなコレクティブハウスづくりが望まれています。また、「年金になったら高い家賃は払えないので、賃貸形式なのが心配」と言う意見や、逆にと言うかだからこそか、「こういった暮らしを実現するために多少のまとまったお金を出すことはできる」という意見もあり、今後、ニーズに見合った事業方式を生み出していく必要性と可能性を強く感じました。

全般的な関心と言いましょうか心配ごととしては、「どのような距離感で暮らせるのか」という点です。一人でいられるプライバシーと、共同によって生み出される信頼や安心のバランスが自分に合うような暮らしにできるのか、ほどよい距離感とはどんなものか、そこは世代を越えた関心事と言えそうです。